



▲丸亀城

城下町の 空間資源再生を軸とした 香川県丸亀市のまちづくり

「まちなか再生」に向けて

丸亀市では、人口減少・少子高齢化が進行し、中心市街地がかつての賑わいを失う中、城下町の特性を生かしつつ、さらなる拠点性の向上を図る、まちなか再生に取り組んでいます。

今回はその取組のうち、大手町地区4街区の再編整備について丸亀市役所都市計画課の石川様へ、株式会社HYAKUSHOの活動について、代表取締役の湯川様へお話を伺いました。

新庁舎整備と大手町エリアの再編

高度経済成長期に整備された丸亀市の市庁舎や市民会館、生涯学習センターなどの公共施設は、老朽化が進み、耐震診断を行った結果、巨大地震による倒壊の危険性があることが判明しました。

そこで、2013年から、新庁舎の整備計画に合わせて、大手町地区の4つの街区について、将来ビジョン等の検討に着手し、2018年には、「大手町地区4街区再編整備構想」を策定しました。

インタビュー

株式会社HYAKUSHO

代表取締役

湯川 致光さん

東京都出身。神奈川県庁、香川県庁、高松空港株式会社を経て、独立。丸亀市の中心市街地でまちづくりに関する様々な事業に取り組む（写真右）。

丸亀市 都市整備部 都市計画課

石川 真司さん

1996年度入庁。2018年度より現所属にて都市再生業務に従事（写真左）。





▲丸亀城から眺めた市民広場と新庁舎



▲新庁舎と市民交流活動センター「マルタス」



▲大手町地区4街区周辺図



▲「マルタス」の交流スペースイメージ

丸亀城のもとに人が集う

この構想では、4街区を丸亀城への動線を中心に東西にゾーニングし、西側の『シブツクパークゾーン』は、ロータリーや駐車場、広場の機能を有し、丸亀城への眺望を生かしたオープンスペースとしています。

そして、東側の『シブツクサービスゾーン』は、既存の公共施設の再編を図り、コンパクトな機能配置により生み出された公共空地を活用した、まちの発展と魅力創出を図るゾーンとしています。

2021年3月22日には、その第一段階として、『シブツクサービスゾーン』に、人と街と歴史をつなぎ、未来への礎となる協創のまちづくりの拠点、新庁舎とその複合施設である市民交流活動センター「マルタス」がオープンします。

今後、新市民会館や緑化駐車場、市民ひろばの整備等も予定しており、まちのシンボル丸亀城に面して、多様な市民が集い、躍動する舞台となるような拠点エリアの形成を目指しています。

生まれ変わりつつあるエリアをどう「つかいこなす」か

こうしたハード的な公共空間の再編を着実に進めていく一方で、次は、エリアマネジメントなどソフト的な取組によって、この場を「つかいこなす」ことも重要になります。

このエリアに、新たな賑わいを生み、丸亀らしい空間を創出し、拠点性を高めるためには、これまで以上に、民と官が有機的につながり、様々な活動を展開できる日常をつくることが必要と感じています。

そのためには、まず第一に、民と官をつなげ、思いを共有する場をつくるのが大切と考えられています。

そこで、これまで商店街活性化やリノベーションまちづくりなど丸亀市の中心市街地で地域の人びとや行政と関わりを持ちながら、精力的な活動を展開してきた湯川致光さんに、行政と地域の多様な主体との連携を取り持つ、中間支援的な役割をお願いすることにしました。

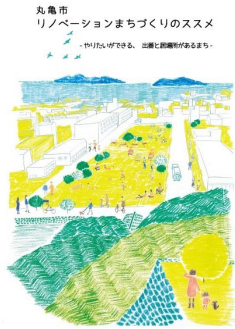
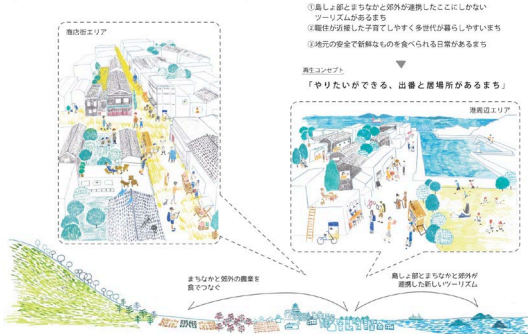


▲未活用の空き家でBarを開く「空き家Bar」



▲空き家見学ツアー ▼事業計画ワークショップ

〓 丸亀市のポテンシャルと再生コンセプト



▲丸亀のまちなかビジョン「やりたいができる、出番と居場所があるまち」



株式会社HYAKUSHOの事業は2つの領域が循環するようになっていきます。1つは空き家の活用による賑わいづくりやスモールビジネスの創出などを行う「エリアマネジメント領域」です。もう1つは、都市公園等の公共施設の整備運営マネジメントを行う「官民連

携事業」などのコンサルティング領域です。エリアマネジメントでの現場の感覚をコンサルティング領域にも活かしていきたい独自のサービスを提供しています。

今まさに取り組んでいるプロジェクトとしては、「丸亀会議」というものがあります。これは、丸亀市を中心とした事業者が集まり、中心市街地のまちづくりを面白く進めていく取組です。丸亀市の事業者の方々は、父親や祖父から事業を継いだ2代目や3代目の若手事業者が多く、今までのビジネスをどうリニューアルしようかと考えている人が多いです。そのような方々と、「地域のために」という旗のもと、丸亀市をリブランディングするのが目的です。楽しみながら、丸亀市さんとも連携して、新しい生業を作っていきます。

「HYAKUSHO」の取り組み

もともと私は2015年、県庁職員時代から、丸亀市の通町商店街で、地域の事業者の皆さんと一緒に賑わいづくりやリノベーションまちづくりに取り組んできました。その過程で「自らまちづくり会社を作りたい」と思い、2019年に株式会社HYAKUSHOを設立することになりました。株式会社HYAKUSHOでは、「行政では解決できない、でも市場に任せていても解決できない課題」を「パブリックの穴」と表現し、その解決に向け、具体的には「まち全体のエリアマネジメント」や「空き家の再生」などのコーディネートを行うっております。その取組を評価いただき、昨年8月に丸亀市から四国第一号となる都市再生推進法人の認定をいただきました。

目指すは、「まちの参謀」

実は私は丸亀市の出身でも、香川県の出身でもないのです。たまたま縁があって、丸亀市で事業をやらせてもらうことになりました。縁もゆかりもない中で、会社を立ち上げるまでの5年間、大変なこともありましたが、どの地域で

携事業」などのコンサルティング領域です。エリアマネジメントでの現場の感覚をコンサルティング領域にも活かしていきたい独自のサービスを提供しています。

今まさに取り組んでいるプロジェクトとしては、「丸亀会議」というものがあります。これは、丸亀市を中心とした事業者が集まり、中心市街地のまちづくりを面白く進めていく取組です。丸亀市の事業者の方々は、父親や祖父から事業を継いだ2代目や3代目の若手事業者が多く、今までのビジネスをどうリニューアルしようかと考えている人が多いです。そのような方々と、「地域のために」という旗のもと、丸亀市をリブランディングするのが目的です。楽しみながら、丸亀市さんとも連携して、新しい生業を作っていきます。

携事業」などのコンサルティング領域です。エリアマネジメントでの現場の感覚をコンサルティング領域にも活かしていきたい独自のサービスを提供しています。

今まさに取り組んでいるプロジェクトとしては、「丸亀会議」というものがあります。これは、丸亀市を中心とした事業者が集まり、中心市街地のまちづくりを面白く進めていく取組です。丸亀市の事業者の方々は、父親や祖父から事業を継いだ2代目や3代目の若手事業者が多く、今までのビジネスをどうリニューアルしようかと考えている人が多いです。そのような方々と、「地域のために」という旗のもと、丸亀市をリブランディングするのが目的です。楽しみながら、丸亀市さんとも連携して、新しい生業を作っていきます。



▲丸亀会議当日の様子

丸亀会議とは

業種の壁を越えて、丸亀エリアを中心にビジネスの第一線にいる事業者の方々と、アイデアを共有し実践し丸亀エリアのポテンシャルを解放する場。

なぜ設立したのか？

- ▶短期的には取組にはなれないが、自分たちのエリアの価値を向上させるエリアマネジメントの取組組合は必要である
- ▶しかし、行政主導だけでは限界があり、官民連携が求められている。
- ▶一方で、民間事業者単体ではリソースに限界があり、意欲ある民間事業者が集まれる受け皿が必要である。

何のために集まるのか？

丸亀のまちなかをより面白い地域にし、エリアの価値を向上させる取組を行う。

これからどんな活動をするのか？

- ▶事業者やクリエイターが集まり、新しい価値を提供できるような場づくり
- ▶丸亀中心市街地の港エリアのイメージを刷新する賑わいづくり

会議メンバー
丸亀市内事業者、周辺エリアの事業者、個人事業主、丸亀在住クリエイターなど

▲丸亀会議で用いたスライド



▲湯川氏（右側）の話に耳を傾ける事業者たち



▲丸亀港～丸亀城までのながれを作る

も同じだと思えますが、各地域には様々なプレイヤーがいます。そのような中で、物事を進める上で、の合意形成は難しいです。だからこそ、「人として」信頼してもらうことが大事だと思います。昔は、「よそもの、わかもの、ばかも」が地域活性化3原則だと言われていましたが、私は「ばかも」リーダー、切れ者、参謀、よそもの「客観的視点」が大事だと思います。すべては難しいですが、都市再生推進法人として、地域を良くしたい、自分の街を面白くしたいという地域の事業者の方々や市民の方々、さらに丸亀市さんと三位一体で取り組めるように、中間支援的な立場を深化させていきたいと思っています。

「HYAKUSHO」の意味

「の」 「HYAKUSHO」は私の目指す社会像なんです。漢字で書く「百姓」。昔は一人一人の『百姓』が地域社会の一員として、農作業や道普請（みちぶしん）、結納の段取りなどのサービスをいくつも担っていました。今後、そういった「パブリックをみんなで少しずつ担う」という百姓的な社会を作りたいと思います、会社名にしました。

瀬戸内海で、世界と繋がっているまち

今までは、丸亀駅の南側（丸亀城側）への公共投資が重点的に行われてきました。にぎわいづくりもお城がコアコンテンツになっていきます。私が、着目したいのは丸亀駅の北側に位置する丸亀港エリアです。昔、丸亀港は本州からこんびら詣に行く際の入り口でしたが、この歴史的なストーリーはあまり知られていません。海を介して世界と繋がっていたのです。海がすぐそばにある港街としてのポテンシャルを解放させ、丸亀城から丸亀港までを含めたエリアで、中心市街地活性化に取り組みんでいきたいです。

まちづくりのポイント

行政主導のハード整備を契機に、日常的に官民連携あるいは民間主導の取組が展開できる素地をつくり、それを「まちなか再生」や「新たな賑わいの創出」など都市課題の解決に結びつけようとしている点が特徴的と考えられます。